

ノー残業デー・ノー部活デーの取り組み

～ノー残業でリフレッシュ～ 丹波市立和田中学校

こんな課題がありました(改善の必要性)

- 【課題1】 残業が日常化し、ゆとりがない。
- 【課題2】 ノー部活デーが有効に活用されていない。
- 【課題3】 子どもの家庭学習の時間が少ない。

その背景にはこんな要因がありました(課題の発生要因)

- 【要因1】 部活動指導の後、教材研究や担任の仕事を行っている。
- 【要因2】 課題を与えないので学習に対する意欲が希薄になっている。
- 【要因3】 テレビやゲーム・メール等に費やす時間が長くなっている。

そこで、こんな改善に取り組みました(改善の方向性)

- 【改善1】 火曜日をノー残業デー・ノー部活デーとし、定時帰宅する。
- 【改善2】 家庭学習の習慣をつけるため、ノー部活動日(火曜日)に課題を設定し、水曜日の朝に確認テストを行う。(水曜日の朝の職員打ち合わせを行わない)

改善に取り組むことにより、こんな効果がありました(改善の効果)

- 【効果1】 「できるだけ残業はしない」という雰囲気が職員の間でできてきた。
- 【効果2】 徐々に家庭学習の習慣が定着しつつある。
- 【効果3】 本来の部活動のあるべき姿について考えるようになっている。

推進校ではこのように取り組みました(改善事例)

こんな課題や要因がありました(改善の必要性・課題の発生要因)

残業の日常化

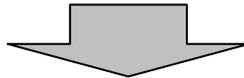
部活指導を終えてから担任としての仕事や担当教科の準備をするため、どうしても帰宅が遅くなってしまいます。ほとんどの職員がそうであるため、残業せずに帰ろうという意識が希薄になっている。

部活動の適正化

勝利至上主義ではなく、生徒の自主的な活動を支援する本来の部活動のあり方や効果的な指導方法の研究など学校全体で進めて行く必要がある。

家庭学習の充実

家庭学習の習慣が身に付いていない生徒もかなりの割合でいる。適切な課題を出し適切な評価をすることは子どもの学習意欲の向上につながる。

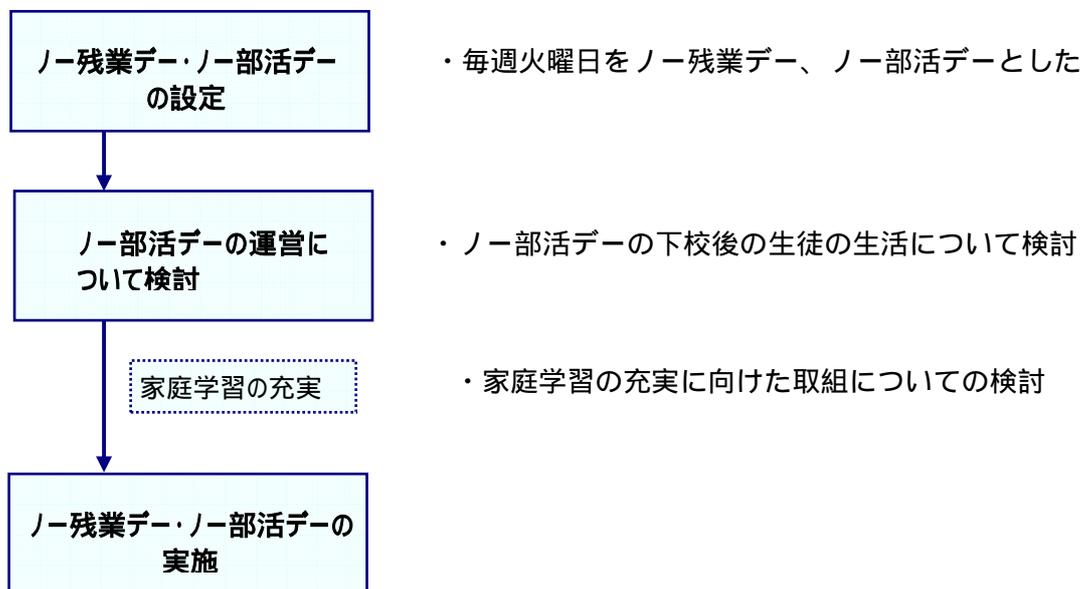


これらの課題認識のもと次のような取組により、業務の効率化を図りました。

- ノー残業デーの設定
- ノー部活デーの設定
- ノー残業デー、ノー部活デーのルールを定める

こんな改善に取り組みました(改善の方向性)

【取組フロー】



【取組結果】

ノー残業デーとノー部活デー実施についてルールを設定し職員間で共通理解を図った。

また、職員室の黒板に赤地に黒の「ノー残業デー」「ノー部活デー」の表示板を設置することとした。

「ノー残業デー」実施

毎週火曜日をノー残業デーに設定する

「自分一人くらい」という意識を払拭し、全員でこの日は「残業せずに帰る日」と決めて全員で取り組む

子育てや家族団らん、生きがいなど家庭生活と仕事の両立ができるよう温かい職場環境をつくる業務が他の曜日にしわ寄せがこないよう業務の能率化・簡素化を図り、実効性のあるものにする
過重な業務については全体で話し合い、時間内に業務が終了するように協働体制を整える

「ノー部活デー」実施

毎週火曜日をノー部活デーに設定する

毎週1日は部活動をしない日を作り、学習の充実や趣味、また家族との団らんの日とする

勝利至上主義ではなく、生徒たちの自主的な活動を支援する部活動のあり方や指導方法の研究など学校全体で進めていく

試合等を考慮し、設置日を事前調整する

「ノー残業デー」と同日にし、勤務時間の適正化に努める

こんな効果がありました(改善の効果)

教職員の勤務に対する意識改革ができつつある

「自分一人くらい」という意識を払拭し、この日は「残業せずに帰る」と決めて全員で取り組んでいることから、ノー残業デーへの理解が深まり、職員の意識改革ができつつある。

また、表示板を黒板に貼り付けることで、なお一層意識を高めることができている。

心身のリフレッシュが図られつつある

「ノー残業デー」と併せて「ノー部活デー」を実施し、心身のリフレッシュ、省エネの意識が高まった。

ノー部活デーを利用した家庭学習の習慣化が図られつつある

課題を適切に示すことにより、家庭学習の充実が図られている。これは、ノー部活デーにすることにより、生徒自身にゆとりが生まれ時間的にも学習することが可能となっている。

また、次の日に学習の定着度を計ることなど、生徒の励みにもなっている。これは、生徒自身の自己評価を可能としている。